

## 第1回青森県立高等学校入学者選抜研究協議会 概要

日時：令和8年5月27日（水）

13：30～15：30

場所：東奥日報新町ビル

3階 New's ホール催事場D

### <出席者>

青森県立高等学校入学者選抜研究協議会

研究協議会委員：12名（5名欠席）

専門委員会委員：7名（研究協議会委員と兼務含む・2名欠席）

### 1 開会

### 2 教育長挨拶

風張教育長から、挨拶があった。

### 3 自己紹介（委員）

### 4 設置要項説明

事務局から設置要項について説明をした。

### 5 会長及び副会長の選出

会長に和久 秀樹委員、副会長に福士 貴博委員を選出した。

### 6 会長及び副会長挨拶

和久 秀樹会長から、挨拶があった。

### 7 専門委員会委員長、副委員長の選出

委員長に福士 貴博委員、副委員長に三橋 信子委員を選出した。

### 8 研究協議

#### （1）現行制度導入の経緯及び県立高校入試制度の概要

事務局から現行制度導入の経緯及び県立高校入試制度の概要について説明をした。

【質疑応答】（質問：◆ / 回答：◇）

◆ 平成24年以降、このような協議会は行われていないのか。

◇ そのとおり。14年ぶりの開催である。

◆ 生徒や保護者が一般選抜か特色化選抜のどちらで合格したか、現在分かるようになっていないのか。

◇ 分からないように合否を発表している。

#### （2）本協議会の設置について

事務局から本協議会の設置について説明をした。

### (3) 研究協議事項・開催予定

事務局から研究協議事項・開催予定について説明をした。

### (4) 現行制度の実施状況（成果と課題）

ア 事務局から現行制度の実施状況について説明をした。

#### 【質疑応答】

◆ 本アンケートは高校を通じて実施しているのか。入学者選抜を受検して合格しなかった生徒はアンケートの対象に入っていないのではないかと思うのだが、アンケートの方法をお伺いしたい。

◇ アンケートについては学校を通して依頼しているため、入学者とその保護者が対象となっている。

イ ①「選抜制度」、②「学力検査・調査書」、③「受検機会・選抜日程」について協議を行った。

#### 【協議内容】

##### ①「選抜制度」について

- ・特色化選抜という言葉は、今後も使われていくのか。現在の特色化選抜は、有効に機能しているのか。生徒の中学校生活での活動や努力は、現行の選抜制度の中で適切に評価できているのか。
- ・アンケートでは、現行制度について約8割が肯定的な意見であるが、回答者が合格者に偏っており、そのまま受け取るのは危険である。
- ・中央教育審議会が次期学習指導要領を検討しており、その中で、高校の入試制度の改善や、中学校や高等学校で各校の自由裁量で授業時数を定めることについても言及している。例えば、これが可能となった場合、近隣校の特色化選抜の内容に応じて、中学校が授業時数を決めていく可能性がある。国の制度改革の動きも踏まえ、今後の選抜の在り方を検討していくべきである。
- ・県外では、選抜名称が総合型選抜や学校推薦枠など、本県の特色化選抜と同じような目的の選抜がある。これらの様々な例を専門委員会の方に調査していただき、分かりやすい指標で示してほしい。
- ・アンケートでは生徒も保護者も学力と人柄の両方を見てほしいと考えている。生徒個々の良いところが十分発揮される選抜制度が必要である。
- ・中学校では、この生徒は特色化選抜での合格ではないかといった会話がなされることもある。一般選抜、特色化選抜のどちらでの合格なのか発表できないのか。不透明さを感じることもある。
- ・保護者の立場として、中学校の先生方も一般選抜、特色化選抜のどちらで合格したのか分かっていないのは驚きである。内申点も含めて、オープンにしているのではないのか。

##### ②「学力検査・調査書」について

- ・調査書の点数化の方法は、各高校でそのルールを細かく定めているが、部活動の地域展開や、部活動自体がなくなることで、能力があるのにそれを発揮する場面がない生徒がいる中、平等な点数化が難しく、潜在的に不公平が生じている状況ではないか。
- ・調査書における部活動の点数化は全国で12、3県しかないと同っており、きちんと

検討する必要がある。

- ・部活動の点数化を続けるのであれば、地域との連携は必須である。
- ・部活動や地域のクラブの他、習い事を行っている場合もある。そうするときりがなくかもしれないが、そこまで議論していただきたい。
- ・調査書の様式について、選抜において点数化されるだけであれば、文章表記ではなく項目だけでよいのではないか。一方、頑張りをきちんと伝えることが目的であれば文章表記も必要である。今後、調査書の目的について議論をして明確にしていくべきである。
- ・現在、小・中学校ではICTの活用が進んでいる。地区によっては、定期テストを端末で行う方針が出され、児童・生徒もそれに対応している。今後は学力検査に端末を使用する時代が来ると考えている。

### ③「受検機会・選抜日程」について

- ・先生方の働き方改革の時代ということで、併願制度は賛成である。
- ・現在、3月第1週に一般選抜、第2週に追検査、第3週に再募集が行われている。出願者が0だとしても、準備は丁寧に行わなければならない。正直先生方は負担が大きいのではないかと考えている。だから選抜制度を軽くするというのではないが、先生方にも意見を聞いていただきたい。
- ・再募集について、ほとんど出願者がいない状況で、実施する必要があるのか。私立高校では、入学者の人数が年度末まで確定しない。中学生の立場では、県立か私立か入学先が確定しない。そういう状況も考慮していただきたい。
- ・受検日程によっては、県立高校の合格発表の前に私立高校の入学金を払う必要が出てくる。保護者としては大きな負担である。
- ・万が一、2月に入学者選抜を行う場合、現在の学習指導要領では授業時数の確保が難しく、中学校の立場として現実的にかなり難しいと考える。その場合、残りの卒業までの期間に通常の授業を行う必要が出てくる。

## (5) 専門委員会の調査事項

(4) の議論を基に次の調査項目が示された。

### 【調査項目】

- ① 現行制度の成果と課題について分析し、整理した資料を作成。
- ② 調査書や日程、いわゆる特色化選抜の部分について、全国の状況をまとめた資料を作成。

## 9 その他

事務局から今後の研究協議会の日程について説明をした。

## 10 閉会

坂上理事から、挨拶があった。